

社会科通信 15号

2000年7月18日 芝浦工大柏中学高等学校社会科

21日から九州・沖縄サミット（主要国首脳会議）始まる 紛争予防やIT対策、債務削減を議論

今回は日本が4回目の議長国のサミット。小渕首相の強い意向を受けて、治安対策などの問題の多い沖縄を、あえて開催地とした。平和を考えるには沖縄の地が最適だろう。

- ・太平洋戦争最大の激戦地沖縄。
- ・住民の4人に1人がなくなった地上戦。
- ・在日米軍基地の75%が集中する沖縄。
- ・東アジア紛争地帯をにらむ米軍の拠点。

そして、会場のある名護市は、沖縄基地問題の象徴である、普天間飛行場の移転場所に決まっている。

【債務削減とジュビリー2000キャンペーン】
ジュビリーとは旧約聖書のヨベルの年からきて、7年を7度数えた年の翌年、50年目のこと。その年に全債務が帳消しにされ奴隷も解放された。国連は2000年をジュビリー年と定め、すべての人が人間らしく生きる世界を目指す。キリスト教会やNGOが進めるのがジュビリー2000キャンペーン。重債務に陥った途上国の借金を一回だけ帳消しにし、人びとの基本的人権を取り戻す試みで、昨年6月のケルン・サミットに1700万人の署名が届けられ、700億ドルの債務削減が合意された。今年は条件抜きの全面債務帳消しが目指され、日本には100億ドルの債権放棄が求められている。

サミットsummit: 英語で頂上を意味する。先進国の首脳が世界の経済や政治問題を話し合うため毎年1回開催される会議で、1975年にフランスのディスカルデスタン大統領の提唱で始められた。日本・アメリカ・イギリス・フランス・イタリア・ドイツ・カナダの7ヶ国の首脳が参加する。第3回目からEC委員長も加わり、1991年(第17回)にソ連のゴルバチョフ大統領、92年以降ロシアのエリツィン大統領が招かれ、現在ロシアの首脳は会議の正式メンバーとなっている。

発足当初は、石油ショックによる世界経済の不況対策など経済問題が中心で、冷戦下の西側諸国の結束を促す目的もあった。冷戦終了後にその意味も薄れ、ロシアの市場経済移行支援といった内容が合意されるなど性格もかわってきています。

今までに日本で開催されたのは1979年(第5回)、86年(第12回)、93年(第19回)で、いずれも東京で開催された。誰？



【沖縄返還への道 戦後の歴史】

1945年8月に沖縄はアメリカ占領下に置かれ、1952年の日本独立後も統治が続いた。同年4月1日琉球政府が設置されたが、この主席も日本復帰派の当選を恐れたアメリカは突如任命制に変更し、親米派の比嘉秀平を任命した。1960年4月28日、「沖縄県祖国復帰協議会」が結成された。ここでは「即時・無条件・全面返還」が主張され、「基地のない平和な島」として日本復帰が望まれた。こうして1968年に初めての主席選挙が行われ、返還を主張する屋良朝苗が当選した。

一方、日本政府も沖縄返還にむけて動き出していた。1965年、佐藤栄作首相が現役首相として初めて沖縄を訪れ、沖縄返還なしに

「日本の戦後は終わらない」と述べて、沖縄返還のためアメリカとの交渉に入った。沖縄は当時行われていたベトナム戦争の後方基地と位置付けられて、「太平洋の要石」として基地なしの返還は当初から考えられていなかった。

両政府の交渉の結果、1972年5月15日沖縄は日本に返還された。しかし、その後も沖縄経済は本土と比べて立ち遅れたまま。1995年秋には海兵隊員による少女暴行事件が起こって、県民の怒りが爆発。政府の基地対策が真剣みを増したばかりである。が、今月も海兵隊員が女子中学生にわいせつ行為をする事件が起きた。世界の紛争と日々接している沖縄の会議で、平和実現の大きな一歩が踏み出されることを願うしかない。プロデューサー

今回の九州・沖縄サミットが行われるメイン会場は「万国津梁(しんりょう)館」である。聞き慣れない名前だが、沖縄の歴史とは切り離せない重要な意味がある。

15世紀から16世紀にかけて沖縄の前身である琉球王国は交易という国際舞台で東アジアの雄としての地位を築いていた。「大交易時代」と呼ばれた時代のことだ。15世紀半ば、当時の王、尚泰久の命令で鑄造された銅鐘の別名が「万国津梁の鐘」だった。王の居城である首里城正殿に掛けられた銅鐘の銘文には、琉球の美しさや朝鮮、明国(中国)との友好、外国の産物や宝が国中にあふれている様子などが詳しく記されている。

その内容は、

琉球国は南海の勝地にして / 三韓の秀を鐘め / 大明をもって輔車となし
日域をもって唇齒となし / この二の中間にありて / 湧出するの蓬莱島なり
舟楫をもって万国の津梁となし / 異産至宝は十方……

「津梁」とは「渡しと橋」の意味。中国との進貢船貿易、日本や朝鮮、東南アジアとの貿易、まさに琉球はアジアの懸け橋だった。この銅鐘は焦土と化した沖縄戦でも奇跡的に焼失を免れ、今は那覇市の県立博物館に置かれている。高さ154.9cm、底部の口径93.1cm、重さは721kg。黒光りする鐘が沖縄の遠い昔の栄華を今日に伝える。

「万国津梁」はサミットの会場名にふさわしい。命名には沖縄が再び世界との交流の場になろうとする気持ち、願いが込められているのだろう。過酷な戦争体験を持つ沖縄県民の平和と発展への願いは強い。サミットはその願いにこたえられるだろうか。「万国津梁」が単なる歴史上の言葉にならないように、参加国の首脳にはしっかりと議論してほしいものである。